

平成 27 年度地域福祉活動計画検証チーム会議の報告

1. 地域福祉活動計画検証チーム会議の開催（偶数月の開催へ変更）

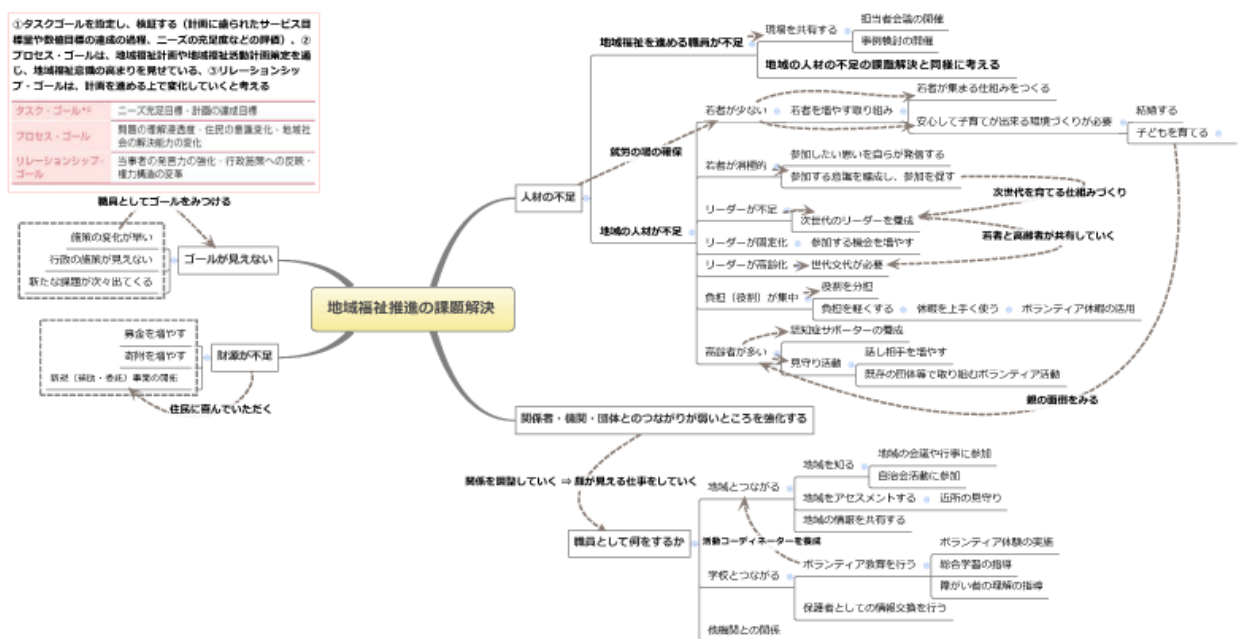
地域福祉活動計画の推進において、活動計画の内部検証の必要性に鑑み、平成 26 年 4 月から 2 年間で計画検証チームを設置し、進行管理・内部評価を検討するとともに、地域福祉活動計画と市地域福祉計画との調整のため、市計画策定への協力を行った。

また、東北福祉大学教授の都築光一地域福祉推進アドバイザーの助言を得、子育てしやすい環境づくり、障がい者の社会参加、福祉避難所の運営について、福祉施設等（地域子育て支援拠点 2 か所、障がい者施設 10 か所、高齢者施設 7 か所）の訪問調査を実施し、地域福祉活動計画の課題解決につなげると共に、地域福祉計画策定資料として提供した。

2. 地域福祉推進のための課題解決

- (1) 検証チーム職員がワークショップ形式により、地域福祉の課題を出し合った。
 - (2) 地域福祉の課題に対し、地域住民として取り組めること、社協（組織）として取り組めることをまとめた。
 - (3) 課題は大きくわけて、①社協職員も含めた地域活動の人材不足、②関係機関等とつながりが弱いこと、③施策の変化が早いこと等によるゴール（目標）が見えないこと、④財源の不足についての 4 点である。
 - (4) (3)の課題解決策として、①職員の人材不足に対しては、職員は現場を共有する会議の定例化と事例検討をしていくことが必要とし、地域人材の不足は、若者と高齢者が地域課題を共有すること、次世代を育てて行くこと、就労や生活の場の確保等が必要であるとした。②関係機関等とつながりを強化することに対しては、職員として顔が見える仕事をしていく中で情報を共有し、段階的に取り組む等が必要であるとした。③ゴール（目標）が見えないことに対しては、職員としてゴール（目標）をみつけ、それに向かった取り組みが必要であるとした。④財源不足に対しては、住民に喜んでいただくための事業の開拓等が必要とした。
- ※課題解決の過程を通じ、社協の各課・各支部の枠を超え、社協職員として、地域福祉の課題解決を一緒に検討することを確認した。

社協職員が考えた地域福祉課題と解決方策



3. 地域福祉活動計画 進行管理・内部評価シートでの検証

・平成 26 年度事業報告や平成 27 年度の社協活動状況も含め、進行管理・内部評価シートに落とし込み、検証を行った。

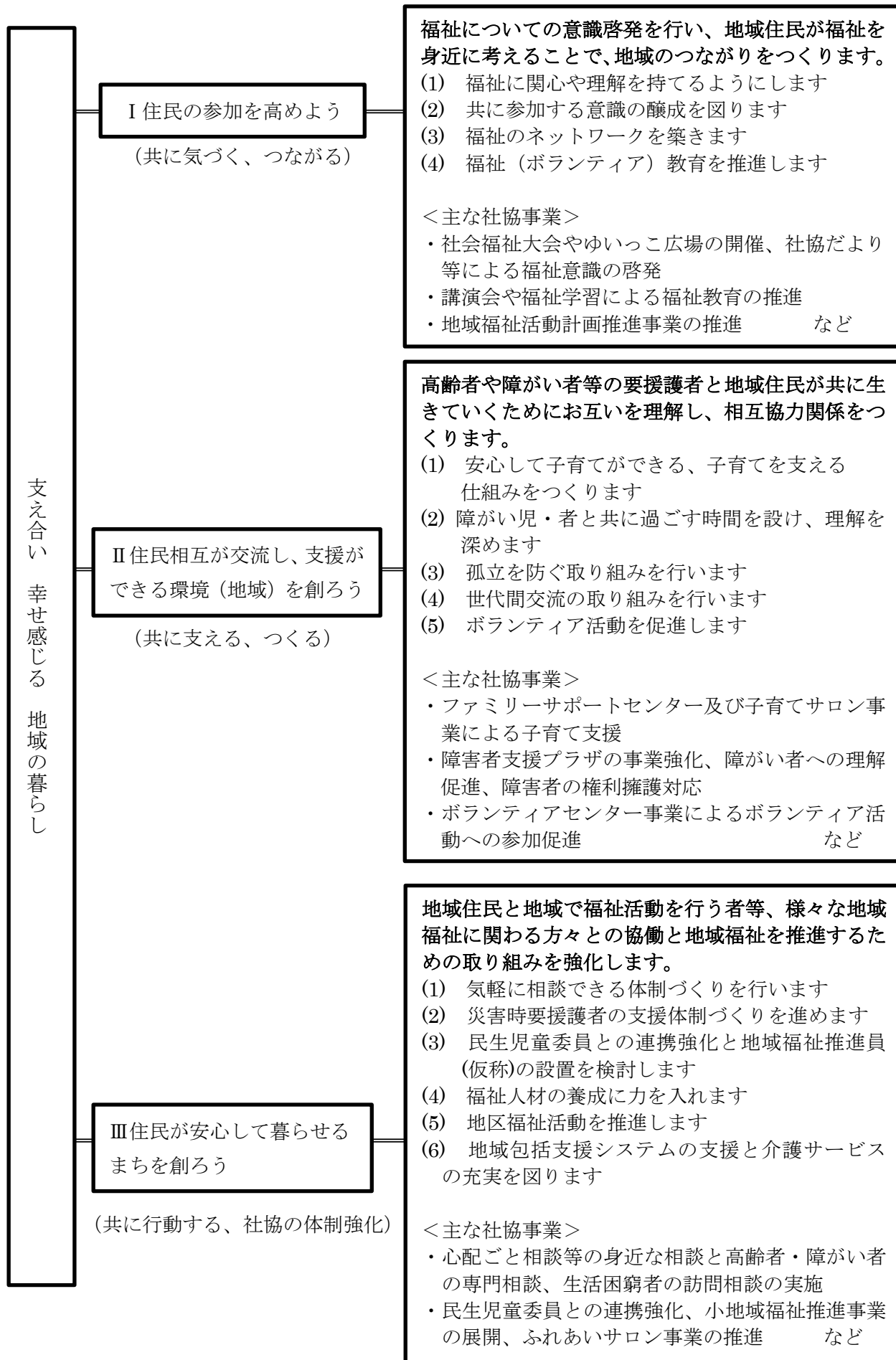
(検証内容のまとめ)

- ◎ 年次推進目標は、推進目標毎、年度毎に啓発・推進・達成・拡充等の目標値を設定。平成 26～27 年度の 2 か年は実践検証を通じ、地域福祉活動計画を支援する計画である地域福祉計画策定に協力し、整合を図り、28～30 年度の 3 年間で計画達成の 1 次目標とした。31～32 年度の 2 年間で 1 次目標の達成度に応じ、取り組みの拡充・修正を行い、第 2 次計画策定へ繋いでいくこととした。
- ◎ 事業展開の成果は、26 年度事業報告書と 27 年度の社協の活動状況を記載した。
- ◎ 進捗評価は、①順調に進んでいる、②概ね順調だが不十分な点が少しある、③実施されている部分もあるが不十分な点が多い、④実施方法も含め改善が必要である、という 4 つの評価基準で評価した。
- ◎ 取り組みの課題、課題解決のための改善内容・取組方針では、前述 2. の課題解決を生かし、検証していくことで、社協職員の取り組みの姿勢や実際の社協事業（活動）に反映させるように進めた。

基本理念

基本目標

推進目標



I 基本目標 住民の参加を高めよう (共に気づく、つながる)

◎年次推進目標

26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度
実践・検証 2年		達成の第1次目標			修正・拡充 2年	
市計画と整合						

◎事業展開・進捗評価・課題・改善内容（取組方針）

(1) 推進目標 福祉に関心や理解を持てるようにします

実施計画	福祉を身近に考える取り組みを推進します
事業展開に対してどのような成果(結果)があったか	
<ul style="list-style-type: none"> ・地域の中で福祉について話題を共有することで「福祉」が身近な存在となってきている。 ・学校、中学校、高校が地域との福祉体験を形に現すことで、一部ではあるが、身近な福祉への取り組みにつながった。 	
進捗評価	課題
実施されている部分もあるが不十分な点が多い	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会や企業、PTA、高齢者向けなどの対象別福祉学習の取り組みに情報の共有や連携が不足している ・施設職員やNPO団体等が共に関わる機会が不足している
課題解決のための改善内容・取組方針	
<ul style="list-style-type: none"> ・地区推進協や自治会、老人クラブなど地域団体と情報を共有し、地域で気軽に取り組める対象別プログラムについて情報交換を行う。 ・福祉施設やNPO団体等と連携を図り、共に地域で関わる機会を支援する。 ・社協だよりや支部だよりやホームページ等を活用しての情報提供を行う。 	

実施計画	要援護者(高齢者や障がい者など)と共に取り組む福祉学習の実践
事業展開に対してどのような成果(結果)があったか	
要援護者に対し特別な存在から身近な存在(自分たちと変わらぬ人間)と認識し意識改革につながった。(学校から寄せられた感想文等から)	
進捗評価	課題
概ね順調だが不十分な点が少しある	<ul style="list-style-type: none"> ・地域資源がどのくらいあり活動できるのか把握が不十分 ・要援護者の生活に寄り添った視点での福祉学習の内容が不十分 ・ピアカウンセラーが地域に出向いた状況等の把握が不十分
課題解決のための改善内容・取組方針	
<ul style="list-style-type: none"> ・地域資源を活用しながらの福祉学習を進めるために、地域との連携を図り情報収集に努める。 ・要援護者と共に福祉学習に取り組めるよう、学習への関わり方や進め方を検討する。 ・施設や事業所が持つ機能や技術を生かし福祉出前講座などを行い福祉意識の啓発を進める。 ・福祉まつりの開催行事等で福祉意識の啓発を進める。 ・ピアカウンセラーによる地域での学習会等の実施状況を把握し、共に地域に出向けるよう情報交換を図っていく。 	

実施計画	福祉意識の啓発を進めます
事業展開に対してどのような成果(結果)があったか	
<ul style="list-style-type: none"> ・福祉まつり、ボランティア活動等を通じて、子供からお年寄りまでの年代で、福祉を知るきっかけとなった。 ・まちづくり協議会の会議に参画することで、地域住民と共に福祉について考える機会となった。 	
進捗評価	課題
実施方法も含め改善が必要である	<ul style="list-style-type: none"> ・市(まちづくり担当課)と連携が図れている地域が一部である。 ・福祉意識の啓発用のチラシ作成等について、具体的な情報交換が進められていない。
課題解決のための改善内容・取組方針	
<ul style="list-style-type: none"> ・まちづくり担当課と連携を図り、共に地域課題や福祉について考える取り組みを図る。 ・福祉を「知る、考える、行動する」テーマとしたチラシを作成できるよう、関係団体と情報交換を積極的に行っていく。 ・福祉計画の策定に繋げて行く。 	

(2) 推進目標 共に参加する意識の醸成を図ります

実施計画	住民の声掛けによる参加が高まるような取り組みを推進します
事業展開に対してどのような成果(結果)があったか	
<ul style="list-style-type: none"> ・一部の地域では住民主体の支えあいの啓発ができた。 ・防災マップづくりを通して、地域のつながりが可視化できた。また、災害時の行動を確認することができた。 	
進捗評価	課題
概ね順調だが不十分な点が少しある	<ul style="list-style-type: none"> ・共に参加する意識の醸成が全域に啓発できていない ・地域課題が把握できていない地域もある
課題解決のための改善内容・取組方針	
<ul style="list-style-type: none"> ・共に参加する意識の醸成につながる啓発や働きかけを行う。 ・地域課題は、まちづくり推進課、まちづくり協議会と情報共有を進めていく。また、各種会議での情報収集や、日頃からの住民・団体等からの情報が重要なので、引き続き情報収集に努める。 	

実施計画	地域福祉啓発事業の促進と展開を図ります
事業展開に対してどのような成果(結果)があったか	
社協だよりやホームページ、広報、チラシにより、社協の事業や開催行事、各支部の情報、地域活動団体等について周知することができた。	
進捗評価	課題
順調に進んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・社協だよりの内容を充実させ、より多くの方に読んでもらうことが必要 ・社会資源のネットワーク構築のため、社会資源の情報収集が必要
課題解決のための改善内容・取組方針	
<ul style="list-style-type: none"> ・社協だよりの内容や発行時期について、検討する。 ・団体、組織の情報(サービス)等の社会資源について把握する。 	

実施計画	小地域福祉推進活動への活動助成を行います
事業展開に対してどのような成果(結果)があったか	
活動助成金の交付により、住民の自主的な地域福祉活動を支援することができた。	
進捗評価	課題
順調に進んでいる	活動助成金を交付した成果が検証できていない
課題解決のための改善内容・取組方針	
活動助成金を交付した成果について、検証を行う。	

(3) 推進目標 福祉のネットワークを築きます

実施計画	地域活動団体の交流促進を図り、福祉ネットワークづくりに努めます
事業展開に対してどのような成果(結果)があったか	
<ul style="list-style-type: none"> ・ふれあいサロン団体の交流が図れた。交流会では、保健福祉課等関係機関等の協力により連携できた。 ・ふくしまつり等の開催により、地域の団体・ボランティアとのネットワーク構築につながられた。 	
進捗評価	課題
実施されている部分もあるが不十分な点が多い	<ul style="list-style-type: none"> ・サロンが偏在している ・解散団体があるなど、運営の継続が難しい
課題解決のための改善内容・取組方針	
<ul style="list-style-type: none"> ・ネットワークとしてのふれあいサロンの有効性を高めるためには、地域に万遍なくサロンが開設されるよう、サロンが無い地区への事業PRも進めていく必要がある。 ・既存サロンの運営に関する、課題や問題点を掘り起し、支援を行っていく。併せて魅力あるサロン活動の支援も行う。 ・可能な限り地域の団体等に声掛けを行い、繋がりを深める。 	

実施計画	地域福祉推進のための関係機関のつながりの仕組みづくりを図ります。
事業展開に対してどのような成果(結果)があったか	
試験的に、平成 27 年度に東部包括支援センター、福祉課、孝養ハイツ、社協共催で釘子地区のふれあいサロンについての介護予防指導に取り組むこととした。(室根支部)	
進捗評価	課題
実施されている部分もあるが不十分な点が多い	<ul style="list-style-type: none"> ・ネットワークづくりに一歩踏み出せたが、ニーズの収集がもっと必要
課題解決のための改善内容・取組方針	
<ul style="list-style-type: none"> ・住民懇談会等の参加年齢層が高く、他の会議と同様、参加メンバーがあまり変わらない。広い年齢層の会議にする必要がある。 ・ニーズに、迅速に対応することで、案件を通した専門機関等とのネットワークづくりを進める。 ・行政担当課とも協力しながら、まちづくり協議会とも連携を進めていく。 	

実施計画	地域課題に応じた地域福祉活動、社会資源の育成・開発を行います
事業展開に対してどのような成果(結果)があったか	
会議で集約した地域課題の多くは、福祉課題であり、まちづくり協議会のデータと重複している。	
進捗評価	課 題
概ね順調だが不十分な点が少しある	地域課題は、まちづくり協議会で集約したものがあるが、十分課題を共有できていない。
課題解決のための改善内容・取組方針	
<ul style="list-style-type: none"> ・地域課題については、まちづくり推進課、まちづくり協議会と情報共有を進めていく。 ・各種会議での情報収集は必要であるが、日頃からの住民・団体等からの情報が重要、引き続き情報収集・に努める。収集した情報については、早期に協議していく。 	

(4) 推進目標 福祉（ボランティア）教育を推進します

実施計画	体験プログラム・福祉学習プログラムの充実を図ります ①児童生徒の体験プログラムのメニューや内容の充実
事業展開に対してどのような成果(結果)があったか	
福祉学習を行った一部の児童・生徒については、要援護者のうち、障がい者の理解の醸成と高齢者への優しさの心を醸成する機会となったと考える。（一部の児童・生徒だけの実施に留まっている）。	
進捗評価	課 題
実施されている部分もあるが不十分な点が多い	学校の児童生徒について、福祉学習は実施されているが一部の学年のみの指導や、プログラムメニューや内容が統一されていない
課題解決のための改善内容・取組方針	
児童・生徒の福祉学習の体験プログラムメニューや内容については、社協指導者間の情報共有を図り、生徒児童に対する統一的なプログラムの開発を目指し、学校へプログラムの提示が出来るように進める。併せて、福祉施設の体験だけではなく、地域の福祉活動やボランティア活動の参加も加え、より充実を図る。	

実施計画	体験プログラム・福祉学習プログラムの充実を図ります ②地域におけるプログラムの検討・開発
事業展開に対してどのような成果(結果)があったか	
<ul style="list-style-type: none"> ・地域福祉計画の高校生ワークショップを行ったことにより、高校生に一関市の地域課題を考える時間を設け、福祉教育を進める一助になった。 ・地域におけるプログラムは未開発であり、実施には至っていない。 	
進捗評価	課 題
実施方法も含め改善が必要である	地域におけるプログラムを新たに開発し、実施方法やその展開も検討が必要である
課題解決のための改善内容・取組方針	
福祉学習については、児童・生徒の要援護者の理解を育む内容として実施をしているが、学びの段階毎に理解が図れるよう、市民活動団体、学校や教育委員会等と連携しながら、地域におけるプログラムを検討・開発するように進めていく。	

実施計画	体験プログラム・福祉学習プログラムの充実を図ります ③福祉学習サポーターの養成・設置の検討
事業展開に対してどのような成果(結果)があったか	
福祉学習サポーター養成は未開発であり、実施には至っていない。	
進捗評価	課題
実施方法も含め改善が必要である	福祉学習サポーターについては、市、社協、学校、地域住民等で、必要性を共有することから始める必要がある。
課題解決のための改善内容・取組方針	
<p>・福祉学習を進める福祉学習サポーター(学校教諭、主任児童委員、地域住民等)の養成・設置については全国的な事例で有効性があるとされているが、当地域における必要性については市、社協、学校、地域住民等で必要性を共有できていない。まずはその必要性を関係機関等で共有し、住民が児童・生徒の福祉学習に福祉学習サポーターが参画・協力することで体験プログラムや福祉学習プログラムが住民自身に身近なものとして捉えられるよう取組みを進める。</p>	

実施計画	要援護者(高齢者や障がい者など)の理解を育む学習を推進させます。
事業展開に対してどのような成果(結果)があったか	
児童・生徒の学習については、要援護者のうち、障がい者の理解の醸成と高齢者への優しさの心を醸成する機会となった。	
進捗評価	課題
実施されている部分もあるが不十分な点が多い	<ul style="list-style-type: none"> ・地域における要援護者理解への特化された取組みは行われていない。(高齢者については様々な事業での関わりがあると考えますが、障がい者との関わりがない) ・児童生徒の学習が実施されているが、一部の学年のみの指導や内容の統一的指導がなされていない
課題解決のための改善内容・取組方針	
<ul style="list-style-type: none"> ・地域における要援護者の理解については、社協や行政では、地域にある福祉施設を通じ、高齢者や障がい者との関わる機会を作って行くなど、地域の一員としての要援護者観を育むことによる地域の支え合いを進める。 ・児童生徒に対しては、指導する側(社協、当時者、学校教諭など)が共通理解のもと、指導を行って行かなければならない。 	

実施計画	児童生徒の地域参加と交流の機会や場の提供を図ります。
事業展開に対してどのような成果(結果)があったか	
<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア協力校の児童生徒と地域との関わりは日常的な関わりではなく、イベントの関わりに終わっている。関わった児童生徒は一部であるが、その関わりで住民から活動を激励されたことは良かった。 ・高校生ワークショップでは地域課題の解決方策において、地域に関わって行くことも学生ができることとしてあげられた。 	
進捗評価	課 題
実施方法も含め改善が必要である	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア協力校事業では、地域との関わりが少ないので、今後、地域との関わりをどのように築いていくのかは、学校と一緒に取り組むことが必要である。 ・交流の場であるゆいっこ広場等の今後の展開を検討する時期にきている
課題解決のための改善内容・取組方針	
<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の地域参加と交流は、生涯学習としての市民センター事業で関わってきた経緯も踏まえ、地域協働の取り組み中での課題解決の取り組みを考えていく必要も出てきている。 ・社協として、学生の地域参加や交流をどのように支援していくのかを考えなければならない。 	

Ⅱ 基本目標 住民相互が交流し、支援ができる環境(地域)を創ろう
(共に支える、つくる)

◎年次推進目標

26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度
実践・検証 2年		達成の第1次目標			修正・拡充 2年	
市計画と整合						

◎事業展開・進捗評価・課題・改善内容(取組方針)

(1) 推進目標 安心して子育てができる、子育てを支える仕組みを作ります

実施計画	一関市ファミリーサポートセンターの利用促進を図ります	
事業展開に対してどのような成果(結果)があったか		
登録者数は増傾向(前年比33増)。主な要因として、家庭の事情により身内に頼れないこと(人間関係、保護者よりも祖父母が現役で就労中等)、保育施設の充実に伴い働く母親が増えたこと(保育園を利用できない際にファミサポを利用)による。研修会、交流会においては、他会員との交流によって刺激が得られ、会員同士のつながりの機会、情報交換の機会になると会員から好評を得ている。		
進捗評価	課題	
実施されている部分もあるが不十分な点が多い	<ul style="list-style-type: none"> ・預かり会員の確保。特に東磐井地区での預かり会員が少ない ・対象地域が広範囲のため、研修会の参加者が一部地域になっている 	
課題解決のための改善内容・取組方針		
<ul style="list-style-type: none"> ・預かり会員の研修において、特に東磐井地区の充実を目的に会員養成のための研修会の開催が必要。 ・広報等を活用して預かり会員の募集を行うが、子どもを預かることの責任の重さを懸念するのか、反応が薄い。事業を詳しく説明することにより、会員になることへの不安解消に努める必要がある。 		

実施計画	子育てサロンへの助成支援を行います	
事業展開に対してどのような成果(結果)があったか		
設置数は減少(前年比6減)。在宅の親子が減ったため、開催時間を午前から午後に調整、長期休みに多く開催するなど、参加者のニーズに応じた工夫を取り入れながらの開催になっている。子育てサロンの構成は育児サークルの会員が中心。		
進捗評価	課題	
実施されている部分もあるが不十分な点が多い	<ul style="list-style-type: none"> ・助成の申請要件を満たすことが難しく、申請に繋がらない子育てサロンがある ・市での子育て支援対策が充実したことや、子育て広場が利用され始めたことの影響もあるのか、子育てサロン設置に広がりが見られない 	
課題解決のための改善内容・取組方針		
<ul style="list-style-type: none"> ・子育てサロン事業の見直し等も含め、市との協議を進めていく。その中で、要綱の見直し、要件を緩和することにより、サロンの普及に努める。 ・主任児童委員や児童民生委員等、地域の方々に多く関わってもらいながら、市民センター等の利用を広げるなど、地域への働きかけ方の工夫が必要。 ・地域で活動している子育てサロンの情報については、地域版広報等を活用しながら周知していく。 		

実施計画	養育者の孤立や育児ストレスによる児童虐待防止の啓発に努めます(関係機関との連携強化) ①ファミリーサポートセンター事業及び子育てサロン事業における児童虐待防止の啓発	
事業展開に対してどのような成果(結果)があったか		
<ul style="list-style-type: none"> ・養育者とは違った立場の預かり会員との関わりの中で、開放感により子ども自身がのびのびと過ごす面が見られる。 ・養育者も、ファミリーサポートセンターで預け先が見つかったことにより気持ちが楽になったとの話しが聞かれる。子育てサロンにおいては、より多くの人との関わりを求めて、別のサロンへ参加している方、地域を跨いで参加される方もみられる。 		
進捗評価	課題	
実施されている部分もあるが不十分な点が多い	・参加者が流動的であることから、継続した見守り体制が作られにくい	
課題解決のための改善内容・取組方針		
<ul style="list-style-type: none"> ・古くから運営されている子育てサロンについては、参加者も協力者の立場で関わることができる。 ・最近の傾向として定期開催している場所を選択して参加する保護者が多くみられるので、他機関で行っている事業や検診の機会を活用、連携を取りながら、交流の場づくり、機会の提供が必要となる。 		

実施計画	養育者の孤立や育児ストレスによる児童虐待防止の啓発に努めます(関係機関との連携強化) ② 地域住民の児童虐待防止への理解促進と関係機関との連携の強化	
事業展開に対してどのような成果(結果)があったか		
会議の一場面を通じ、虐待の通告義務について意識化を図ることができた。必要に応じて関係機関に情報提供を行いながら、早期対応と継続訪問等の見守り体制を組むことができた。		
進捗評価	課題	
実施されている部分もあるが不十分な点が多い	<ul style="list-style-type: none"> ・要保護児童対策が地域課題であることについて、意識付けが難しい ・各種会議で要保護児童対策の課題を共有すること 	
課題解決のための改善内容・取組方針		
<ul style="list-style-type: none"> ・民生児童委員連絡協議会への参加を通じて、各委員からの情報収集及び相談対応を継続する。 ・一関市子ども・子育て支援会議へ継続参加し、問題提起を行う。 ・一関市要保護児童対策地域協議会への参加による関係機関との連携強化を進める。 		

(2) 推進目標 障がい児・者と共に過ごす時間を設け、理解を深めます

実施計画	障がいや障がい児・者への理解を図ります	
事業展開に対してどのような成果(結果)があったか		
教育の場で、障がい・障がい者理解の場が設定されることで、家庭・地域への理解が広まった。		
進捗評価	課題	
概ね順調だが不十分な点がある	<ul style="list-style-type: none"> ・地域交流の中心となる住民を育成する ・協力者(地域住民、障がい児・者)を増やす 	
課題解決のための改善内容・取組方針		
障がいの理解を図る総合学習など、継続的な取り組みを行うこと。また研修会や学習を終えた地域住民が、地域で障がい児・者と交流する機会を持つようにすることで、更なる広い範囲での地域で障がい理解促進の活動を目指す。		

実施計画	障がいや障がい児・者との交流する場を設けます
事業展開に対してどのような成果(結果)があったか	
<ul style="list-style-type: none"> 障がい者・障がい児の保護者から地域の福祉に関する意見を聞く場を設けたこと、その中で関係がつけられたこと。 障がい者相談員が活躍する場があり、活動成果が公共の場で活かされた。 	
進捗評価	課題
概ね順調だが不十分な点が少しある	障がい関係者団体との意見交換会の実施(H26実施)をもとに、障がい福祉に関する地域の声を取り上げる機会をつくること。また、自治会・行政区への協力依頼
課題解決のための改善内容・取組方針	
福祉施設調査やアンケートによる結果、障がい者関係団体等からの意見をまとめ、自治会・行政区には地域課題として共有し、協力を依頼していく。	

実施計画	障がい児・者による地域活動への参加を促進します
事業展開に対してどのような成果(結果)があったか	
<ul style="list-style-type: none"> 地域に生活している障がい児・者について、地域住民から知る機会を得た。 障がい者と施設職員から地域活動に関する意見を聞く機会が得られた。 	
進捗評価	課題
実施されている部分もあるが不十分な点が多い	地域の障がい児・者が地域生活を行う上での問題に対して、地域の人と協力した支援をすることがあるが、個別支援で地域に対する障がい福祉にとどまってしまう恐れがあることがあげられる
課題解決のための改善内容・取組方針	
障がい児・者の社会参加と地域生活を支援するために、個別支援のほかに、施設・事業者と協力した障がい福祉に関する活動を企画することで、地域福祉活動として展開を図る。	

実施計画	障がい児・者相談事業所との連携強化を図ります
事業展開に対してどのような成果(結果)があったか	
<ul style="list-style-type: none"> 福祉施設・事業所等との関係がより緊密になった。 新たに障害者自立支援協議会の活動を周知するホームページを作成した(閲覧件数 1,168 件) 	
進捗評価	課題
実施されている部分もあるが不十分な点が多い	<ul style="list-style-type: none"> 基幹相談支援センターの委託と、自立協の運営に伴う、地域の福祉施設・事業所との関係強化を図る。 障がい児・者や地域からの要望を、地域の課題として取り上げ、検討していく流れをつくること。
課題解決のための改善内容・取組方針	
地域の課題を、自立支援協議会の仕組みを利用しながら、検討し解決する流れをつくる。そのため、基幹相談支援センターの活動を通じ、福祉施設・事業所との関係づくりをして、地域の障がい福祉の充実を目指す。	

(3) 推進目標 孤立を防ぐ取り組みを行います

実施計画	日常生活における暮らしの安全・安心を確保します(身守り活動などを通じた孤立を防ぐ取り組みの推進)①地域団体によるひとり暮らし高齢者等支援や見守り活動を支援します	
事業展開に対してどのような成果(結果)があったか		
ふれあいサロンの推進における日常的な「身守り」活動の位置づけは今後も進める必要がある。地域福祉推進員(仮称)の設置については、地域福祉計画に位置づけ、検討が必要。		
進捗評価	課題	
概ね順調だが不十分な点が少しある	地域福祉推進員(仮称)の役割の明確化と有効性について検討し、事業展開に当たっては財源の確保が課題となる。(地域福祉計画への位置づけが必要)	
課題解決のための改善内容・取組方針		
地域福祉推進員(仮称)の設置については、同推進員との連携が求められる民生児童委員や高齢者総合相談センター(地域包括支援センター)との意見のすり合わせが必要(地域福祉推進員と民生児童委員の役割の明確化など)。他地域での類似の制度等についての検討も必要。		

実施計画	日常生活における暮らしの安全・安心を確保します(身守り活動などを通じた孤立を防ぐ取り組みの推進)②高齢者総合相談センター(地域包括支援センター)の相談窓口の充実、強化を図ります	
事業展開に対してどのような成果(結果)があったか		
社協のそれぞれの相談窓口による対応により、専門機関に取り次ぎ、課題解決に導かれた。		
進捗評価	課題	
概ね順調だが不十分な点が少しある	既存の相談窓口は継承しながら、地域住民に身近な福祉相談窓口を設置する。相談員はボランティアとし、地域の拠点に概ね週1回、2時間程度開設することから始める。	
課題解決のための改善内容・取組方針		
初年度に相談員養成研修を実施し、研修後は相談員連絡会を立ち上げるなど、中学校区毎の相談員配置を検討する。相談員の中から、地域福祉推進員(仮称)なども輩出するよう取組む。		

実施計画	要援護者が住み続けられる環境の整備を図ります。 (ちょっとした支援、暮らしの助け合いの促進)	
事業展開に対してどのような成果(結果)があったか		
小地域を単位としてのふれあいサロンが、高齢者等の生きがいづくり、寝たきり・閉じこもり予防活動の役割を果たしている。		
進捗評価	課題	
概ね順調だが不十分な点が少しある	<ul style="list-style-type: none"> ・ふれあいサロンの世話人に対する運営面の支援、高齢者総合相談センターと連携した介護予防活動や総合相談機能の充実 ・身近な生活課題や要望の集約 ・ふれあいサロンに行けなくなった方のフォローなど 	
課題解決のための改善内容・取組方針		
ふれあいサロン運営補助金等の手続きの簡便化を図る。世話人等の運営スタッフの育成支援を行う。マンネリ化を防ぐ開催プログラムの充実。サロンに集まる方々の互助活動を支援する。サロンの充実強化のため、各支部にふれあいサロンコーディネーター(仮称)の配置を検討する。		

(4) 推進目標 世代間交流の取り組みを行います

実施計画	様々な地域活動を通じた世代間の交流の場づくりを共に考えます。 ①自治会及び町内会住民活動	
事業展開に対してどのような成果(結果)があったか		
・地域の取り組みを披露する場面を通じ、地域の高齢者と子ども達がつながる場を提供できた。また地域の高齢者が子ども達に教え、伝えていくことが、生きがいつくりにもつながった。		
進捗評価	課題	
概ね順調だが不十分な点が少しある	<ul style="list-style-type: none"> ・リーダーの高齢化 ・若い世代の担い手が不足 ・まちづくり協議会や地区との連携と関係団体とのネットワーク作り 	
課題解決のための改善内容・取組方針		
行事や活動でリーダーとなる若い世代が参加したいと思ってもらえるような地域活動について、関係団体と連携することで、地域活動と担い手をコーディネートしていく。		

実施計画	様々な地域活動を通じた世代間の交流の場づくりを共に考えます。 ②老人クラブ活動	
事業展開に対してどのような成果(結果)があったか		
<ul style="list-style-type: none"> ・子ども達に教えることで、自分の役割や伝えることの大切さを知るきっかけ作りができた。 ・地域の文化・伝統を若い世代に教える機会を提供できた。 		
進捗評価	課題	
概ね順調だが不十分な点が少しある	<ul style="list-style-type: none"> ・指導者の高齢化により指導が難しくなっている ・後継者となる指導者がなかなか見つからない ・次の若い世代の人が仕事などで忙しいため協力が少ない 	
課題解決のための改善内容・取組方針		
<ul style="list-style-type: none"> ・指導者や地域リーダーを育てていけるように、地域で活動している人の紹介や活動できる場を提供できるよう関係機関や地域と連携して進める。また、若い世代の人が参加できるように研修会などを企画する。 ・伝統文化や行事などを指導、伝達できるように環境を整備し、継承、保存できるように関係団体との連携を図りネットワークを作る。 		

実施計画	様々な地域活動を通じた世代間の交流の場づくりを共に考えます。 ③ふれあいサロン事業	
事業展開に対してどのような成果(結果)があったか		
<ul style="list-style-type: none"> ・子ども達と交流することで、地域での自分の役割やと教えることの大切さを感じとれる機会となった。 ・ふれあいサロン単独で子ども達との交流を企画・実施できていても、社協として世代間交流の企画・実施ができていない。 		
進捗評価	課題	
概ね順調だが不十分な点が少しある	<ul style="list-style-type: none"> ・ネットワークが確立されていない ・サロン、学校や地域と連携をとる ・地区、学校とのコーディネート 	
課題解決のための改善内容・取組方針		
<ul style="list-style-type: none"> ・社協として地区や学校側と協議しコーディネートをする。また、ふれあいサロンと交流について話し合いをして連携をとる。多様な場面で講師や場所等を紹介できるような関係団体との連携も図る。 ・また、ふれあいサロンの取り組みや地区の取り組みなどを紹介し、情報共有、課題の解決につなげられるようにする。 		

実施計画	様々な地域活動を通じた世代間の交流の場づくりを共に考えます。 ④福祉施設との連携
事業展開に対してどのような成果(結果)があったか	
<ul style="list-style-type: none"> ・要援護者と子ども達をつなげる機会ができた。また、福祉、ボランティアを学ぶ機会を提供できた。 ・要援護者だけでなく、施設職員との交流も図られ福祉の現場の理解を深められた。 ・福祉についての理解が進められ、子ども達の進路選択、福祉教育の推進が図れた。 	
進捗評価	課題
概ね順調だが不十分な点が少しある	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉に対する偏見や誤解を招かないように事前学習を行う ・要援護者に失礼のないように施設側と打ち合わせをする ・全支部で企画ができていない
課題解決のための改善内容・取組方針	
<ul style="list-style-type: none"> ・社協と福祉施設、関係機関と連携し福祉に対する学習の機会をつくる。また、学校と事前学習を行い福祉に対する生徒の理解を事前に深めておく。 ・福祉、ボランティア体験等の企画を社協内で方向性をまとめて、施設、関係機関と講習会・研修を行い、理解を深める。施設側、職員と多様な場面で紹介・相談できるような連携を図る。 	

実施計画	様々な地域活動を通じた世代間交流の場づくりを共に考えます。 ⑤子育てサロン事業
事業展開に対してどのような成果(結果)があったか	
世代の違う方と交流をすることで、育児アドバイスをもらうなど情報交換することができた。	
進捗評価	課題
実施方法も含め改善が必要である。	<ul style="list-style-type: none"> ・子育てサロンの中で、世代間交流が少ない ・ネットワーク、コーディネート不足
課題解決のための改善内容・取組方針	
<ul style="list-style-type: none"> ・子育てサロン向けの団体(紙芝居や人形劇など)をピックアップし、他者との交流する機会をつくる。 ・地元の学校等に働きかけ、世代間の交流と学習の場を拡大する。 ・サロンの世話人さんと、他グループと結びつけるために情報交換や連携を図る。 	

実施計画	様々な地域活動を通じた世代間交流の場づくりを共に考えます。 ⑥伝統食文化、伝統技能の伝承、郷土芸能等保存活動等
事業展開に対してどのような成果(結果)があったか	
<ul style="list-style-type: none"> ・伝承、発表側の生きがい作りの提供ができた。 ・伝統文化、伝統技能と接する機会を設けることで、若い世代が文化や行事を知ることができた。 	
進捗評価	課題
概ね順調だが不十分な点が少しある。	<ul style="list-style-type: none"> ・指導、伝達の間が少なく、伝承に広がりがない。 ・少子高齢化により、伝統をどのように伝承していくか悩んでいる地域もある。
課題解決のための改善内容・取組方針	
<ul style="list-style-type: none"> ・市民センターで伝統文化的行事を行っているか把握し、世代間交流につなげるコーディネートをやる。 ・老人クラブや自治会に文化の伝承を呼びかけ、民区行事などに取り入れることで、若い世代に伝統文化・技能に接する機会を増やし興味をもってもらおう。 	

実施計画	世代間交流にかかるコーディネートを行います。
事業展開に対してどのような成果(結果)があったか	
関わった団体やスタッフと接したことで、ネットワークを拡大することができた。	
進捗評価	課題
概ね順調だが不十分な点が少しある。	・ネットワークの拡大、協力体制の構築 ・他機関、団体との連携の構築
課題解決のための改善内容・取組方針	
<ul style="list-style-type: none"> ・関係機関の取り組み状況の把握・情報の収集をする。 ・機関をリストアップすることで、コーディネートを行いやすいようにしていく。 ・関係機関と情報交換や、多く関わることで協力体制を構築していく。 ・講座、研修会について、地域づくり講演会や勉強会の中で、世代間交流の大切さを伝えていく。 	

(5) 推進目標 ボランティア活動を促進します

実施計画	ボランティアセンターを周知し、ボランティア活動の充実を図ります
事業展開に対してどのような成果(結果)があったか	
毎年、広報による情報発信や各種講座を継続実施していることにより、社会福祉協議会及びボランティアセンターの事業の周知が図られている。ボランティア活動保険加入者数が増加しており、市民のボランティア活動への関心が高まってきている。	
進捗評価	課題
順調に進んでいる	体験プログラムや研修メニューの増加は今後も進める必要があり、併せて災害時の訓練や研修の場が十分とは言えないので検討が必要である。
課題解決のための改善内容・取組方針	
体験プログラムや研修メニューの増加はニーズを確認しながら進める必要がある。また、社協職員向け、ボランティアの担い手向け、地域住民向けなどの災害ボランティア研修会も企画、実施していきたい。	

実施計画	地区単位(地区福祉活動推進協議会など)、自治会・行政区におけるボランティア活動を促進します
事業展開に対してどのような成果(結果)があったか	
ふれあいサロンは25年度より2箇所増、実施回数204回増となり、地域ボランティアが活動する場となっている。子育てサロンは25年度より5箇所減となり活動の場は減少した。小地域推進事業のボランティア活動は行われているが、学習会の開催には至っていない。	
進捗評価	課題
概ね順調だが不十分な点が少しある	協働のまちづくりが進められている中、地域ボランティア活動の推進をどのように位置づけるのかは、地域との話し合いが必要である。
課題解決のための改善内容・取組方針	
自治会・行政区など身近な地域におけるふれあいサロン・子育てサロンの活動における地域ボランティアを継続的に奨励します。 地区福祉推進協議会等が行う交流会、見守りなどを支援し、地域住民相互の支え合いを基本としたボランティア活動が促進されるよう、学習会の開催などに努めます。	

実施計画	新しいボランティア活動の提案と担い手を育てます。	
事業展開に対してどのような成果(結果)があったか		
<ul style="list-style-type: none"> ・ネットワークの充実については、課題の収集に終わっている。 ・一関市シニア活動プラザは、25年度に新規開設され、来所相談受付 36 件と少なかったが、来館・電話問合せ 114 件と、順調に推移している。 		
進捗評価	課 題	
概ね順調だが不十分な点が少しある	<ul style="list-style-type: none"> ・各種会議では、地域課題の収集ができたが、新たなボランティア活動の提案はできなかった。 ・一関市シニア活動プラザは地域に浸透するためますますの広報活動が必要。またシルバー人材センター等関係団体との連携を強化していくことが必要と思われる。 	
課題解決のための改善内容・取組方針		
<ul style="list-style-type: none"> ・会議の開催による情報収集は必要であるが、新たなボランティア活動に繋げることも必要である。 ・一関市シニア活動プラザにおいては情報発信、学習機会の提供を継続すること。また地域交流講座をシルバー人材センターと共催するなど、関係団体との連携を図っていく。 		

Ⅲ 基本目標 住民が安心して暮らせるまちを創ろう
(共に行動する、社協の体制強化)

◎年次推進目標

26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度
実践・検証 2年		達成の第1次目標			修正・拡充 2年	
市計画と整合						

◎事業展開・進捗評価・課題・改善内容（取組方針）

(1) 推進目標 気軽に相談できる体制づくりを行います

実施計画	総合相談体制構築への取り組みを行います～身近な相談の場づくりの強化
事業展開に対してどのような成果(結果)があったか	
<ul style="list-style-type: none"> ・心配ごと相談所を本部に開設、花泉・大東・千厩・藤沢地域は移動相談会を開催し住民が気軽に相談出来た。 ・社協ホームページや広報紙にて、多くの方々へ情報発信を行えた。 ・見守りによる、安否確認や相談の早期発見、地域の方々の福祉的な課題や意見交換が行えた。 	
進捗評価	課題
概ね順調だが不十分な点が少しある	<ul style="list-style-type: none"> ・心配ごと相談など地域により実施状況に違いがある。 ・地域性に沿った内容の事業実施が必要。
課題解決のための改善内容・取組方針	
<ul style="list-style-type: none"> ・事業計画作成時における、地域性を検証した上で内容を立案、実施状況の評価や目標設定を行う。 ・実施に向けての担当者と関係者による検討会議などの取り組みを行う。 	

実施計画	総合相談体制構築への取り組みを行います～繋がる相談体制づくりの強化
事業展開に対してどのような成果(結果)があったか	
<ul style="list-style-type: none"> ・各種協議会や公的団体とは組織間としてネットワーク構築が図られた。 ・各相談事業所と関係機関との連携は概ね図られ、相談支援で有効に実施された。 	
進捗評価	課題
概ね順調だが不十分な点が少しある	<ul style="list-style-type: none"> ・相談内容の多様化により、今までかかわりが薄かった関係機関と民間サービス団体等との連携方法が課題。 ・連携向上の指標となるものが必要。
課題解決のための改善内容・取組方針	
<ul style="list-style-type: none"> ・今後、連携の必要性を強く感じている団体について、各事業所へアンケートなどの方法で把握し、繋がりを強化出来る取り組みを検討する。 ・連携向上において、目標と評価を現状では数値で表すのは難しい為、個別の実践事例を通し連携を深める。 	

実施計画	総合相談体制構築への取り組みを行います～専門的な相談体制づくりの強化
事業展開に対してどのような成果(結果)があったか	
<ul style="list-style-type: none"> 各専門的相談事業の運営を通して、住民から寄せられる多種多様な相談を担当相談員が電話、面接、訪問等の方法により個別対応し、課題解決が図れるよう努めた。 	
進捗評価	課題
概ね順調だが不十分な点が少しある	<ul style="list-style-type: none"> 運営費の収入内容が様々であり、経営計画が必要。 モデル事業として開始された生活困窮者自立促進支援事業の今後の事業検討が必要。 住民からの相談を受け入れから、解決まで図る実施状況の成果や評価方法の検討が必要。
課題解決のための改善内容・取組方針	
<ul style="list-style-type: none"> 各事業別に年度計画を立案し実施する。 指導的役割の職員を育成し配置する事で、相談業務の専門性向上が図れるようにする。 年間実績の報告内容を検討し、活動状況の評価をしやすくし、今後の実践に活かせるようにする。 	

(2) 推進目標 災害時要援護者の支援体制づくりを進めます

実施計画	平常時の支援体制を構築します
事業展開に対してどのような成果(結果)があったか	
<ul style="list-style-type: none"> 緊急連絡カードの整備(3,054世帯)を通じ、災害時要援護者の把握に努めた。 一部地域では避難行動要支援者名簿の整備についての勉強会を行い、制度の理解を深めるとともに、災害時の要支援者対策の醸成を行うことができた。 	
進捗評価	課題
実施されている部分もあるが不十分な点が多い	<ul style="list-style-type: none"> 緊急連絡カード名簿の整備と活用 地域における日々の防災対策が醸成されていない
課題解決のための改善内容・取組方針	
<ul style="list-style-type: none"> 災害時の助け合いにつなげるため、意識の醸成を進め、平常時の支援体制を構築します。 地域協働組織、自主防災組織等との連携による、住民の防災への理解も含め、地域における防災への取り組みの推進が必要である。 	

実施計画	災害時の支援体制を構築します
事業展開に対してどのような成果(結果)があったか	
<ul style="list-style-type: none"> 避難行動要支援者名簿の提供を受け、災害時要援護者の情報を共有した。 岩手県防災ボランティア支援ネットワーク連絡会議に出席し、防災ボランティア体制を協議した。 	
進捗評価	課題
実施されている部分もあるが不十分な点が多い	避難行動要支援者名簿提供による情報の共有はされたが、災害時の支援体制として、行政と地域の協働・連携の構築が図られていない
課題解決のための改善内容・取組方針	
<ul style="list-style-type: none"> 平常時の支援体制から災害時に活動できるよう、行政及び地域との連携と支援体制の構築を図る。 災害ボランティア研修等への参加により、災害ボランティアセンターの運営を担う職員を養成するとともに、関係機関・団体とつながることにより、災害時の支援体制を構築していく。 	

(3) 推進目標 民生児童委員との連携強化と地域福祉推進員(仮称)の設置を検討します

実施計画	地域の要支援者等の状況を把握できるよう、必要な情報の共有を進めます
事業展開に対してどのような成果(結果)があったか	
必要な情報が提供されるようになったことで活動が円滑になり、民生児童委員から情報不足で活動ができないとの声が聞かれなくなってきた地域がある。	
進捗評価	課題
順調に進んでいる	各地域によって状況は異なっていないかを確認する必要がある。
課題解決のための改善内容・取組方針	
28年度頃を目途に、民生委員活動に必要とされる情報提供がなされているか、アンケート又は聞き取りを実施し、地区の状況を把握する。	

実施計画	地域福祉推進員(仮称)の設置を検討するための調査研修を行います
事業展開に対してどのような成果(結果)があったか	
民生児童委員から活動課題について聞き取りを行っているところもあるが全てではないため、地区民協の状況調査を行う必要があり、調査の必要性が増した。	
進捗評価	課題
実施されている部分もあるが不十分な点が多い	市地域福祉計画に位置づけた活動実態調査が必要である。
課題解決のための改善内容・取組方針	
民生児童委員活動が円滑に行うために関係団体と連携して、地域福祉推進員(仮称)の設置の課題について検討し、調査や研修を行います。	

実施計画	民生児童委員、主任児童委員との連携を強化します
事業展開に対してどのような成果(結果)があったか	
<ul style="list-style-type: none"> 民生児童委員活動上の悩みや課題の聞き取りをし、行政等関係機関と対応にあたったことで、情報の共有ができてきた。 一部地域では学校行事等への参加調整を行ったことで児童生徒との関わりが円滑になり、情報交換、交流が活発になってきた。 	
進捗評価	課題
概ね順調だが不十分な点が少しある	<ul style="list-style-type: none"> 民生児童委員活動をサポートするような仕組みづくりが必要 学校から直接案内をするものと、事務局を通して案内をするものと、あいまいなものがあり整理が必要であった。
課題解決のための改善内容・取組方針	
民児協全体で悩みや課題について聞き取りする機会を設ける必要がある。また、社会福祉法人、社会福祉施設等も巻き込み、民生児童委員活動をサポートする仕組みづくりを検討する必要がある。	

実施計画	地域福祉推進員(仮称)になる担い手を育て、地域福祉活動の充実を目指します ①広報の充実
事業展開に対してどのような成果(結果)があったか	
民生児童委員活動について、社協だより等の掲載により周知した。回数が少ないため周知はが不十分であると感じるが、民生児童委員からは徐々に活動が円滑になってきたようだとの話もある。	
進捗評価	課題
実施されている部分もあるが不十分な点が多い	①継続した取り組みと記事の工夫 ②市広報紙との連携、記事内容の分担
課題解決のための改善内容・取組方針	
民生児童委員活動に対する地域住民の理解を深めること、活動への協力を呼びかけるために、広報活動を充実します。	

実施計画	地域福祉推進員(仮称)になる担い手を育て、地域福祉活動の充実を目指します ②地域における助け合いの関係作り
事業展開に対してどのような成果(結果)があったか	
地域福祉活動事業を通じて、信頼が深まり、民生児童委員の役割、活動への協力が見られた。	
進捗評価	課題
実施されている部分もあるが不十分な点が多い	・個人情報の取扱いへの理解、地域ごとの状況把握 ・一斉改選の都度、地域における関係づくりが必要
課題解決のための改善内容・取組方針	
個人情報の取扱いについては地域で情報を共有できる体制作りが必要。身近な地域の要援護者を支える意識作りと、支援に必要な情報の共有を考えていく取り組みを進める必要がある。	

(4) 推進目標 福祉人材の養成に力を入れます

実施計画	住民主体の地域福祉活動を担う新たな人材の発掘と養成に努めます
事業展開に対してどのような成果(結果)があったか	
支援が必要とされる人とのつながりを深める様々な交流会や地域で行われている行事等へ住民が参加することで、地域の高齢者、障がい者や子育ての親など関係がつくられ、その中から地域福祉活動を担う人が少しずつ育ちはじめている。	
進捗評価	課題
概ね順調だが不十分な点が少ない	・ボランティア講座修了後にボランティアのきっかけになるような具体的な活動紹介ができない。 ・リーダーの後継者は短期では育たないので、時間をかけて育てる環境が必要である。
課題解決のための改善内容・取組方針	
<ul style="list-style-type: none"> ・関係機関との情報を共有し、地域で気軽に取り組める対象別プログラムについて情報交換を行う。 ・社協だよりや支部だより、ホームページ等を活用しての情報提供を行う。 	

実施計画	福祉職の人材養成と組織の強化に取り組みます。
事業展開に対してどのような成果(結果)があったか	
社協の業務で専門職としての実践・研修を積むことで、仕事に向かう意識・意欲の向上に繋がったとともに、業務改善を図るための契機ともなっている。	
進捗評価	課題
実施されている部分もあるが不十分な点が多い。	賃金水準、雇用形態などの観点から他の職業と比べ、魅力のある職場と認識されにくい点もあるが、職員、人材の質がサービスの質に直結することから、優れた人材を確保し、やる気を向上させるなどの定着づけが大切となっていく。
課題解決のための改善内容・取組方針	
<ul style="list-style-type: none"> ・専門的研修、階層別研修を行うことで、意識を高めていく。 ・福祉の職場のイメージはきつい仕事、給与が低い仕事、将来の不安等のマイナスイメージが生じているので、キャリアアップ支援と処遇改善が必要。 	

(5) 推進目標 地区福祉活動を推進します

実施計画	ふれあいサロン事業の充実・機能強化を図ります
事業展開に対してどのような成果(結果)があったか	
ふれあいサロンへの参加は高齢者の健康増進や閉じこもり防止につながっている。また自治会など地域での協力体制がある地域では新たなサロンの立上げや世話人の引継ぎがされて更に充実が図られ、行政との連携による介護予防の取組みや栄養指導の充実にもつながっている。 平成 26 年度 350 カ所 3,962 回(平成 25 年度 348 カ所 3,758 回と比較し増加)	
進捗評価	課題
実施されている部分もあるが不十分な点が多い	参加者が高齢化しているふれあいサロンでは、世話人に負担が集中し、世話人(担い手)のなり手が無いため解散に至ってしまうサロンや、活動メニューに苦慮している世話人もいる。また、近くに集会施設が無い等が、サロン活動の妨げの理由となっている地域もある。
課題解決のための改善内容・取組方針	
サロンの担い手不足の解消に向けては、各サロンが開設地区の自治会や行政区に協力を要請することを検討することも必要である。行政や社協は、サロン活動に関わる世話人等に対して研修会、懇談会を実施し長期わたる活動を支援することが必要である。	

実施計画	地区福祉活動推進協議会等の組織づくりを図ります
事業展開に対してどのような成果(結果)があったか	
地区福祉活動推進協議会やこれに代る組織が既に作られている地区では、助成金を活用して自治会や老人クラブ等、各種団体、また市民センターや学校、保育園とも連携し多くの住民が参加交流できる福祉活動を実施している。	
進捗評価	課題
実施されている部分もあるが不十分な点が多い	地域課題を解決できる組織が地域によって異なるため、事業実施に向けては地域住民による十分な協議が必要である。また地域によっては、今後の地域協働体設立も見据える必要がある。
課題解決のための改善内容・取組方針	
<ul style="list-style-type: none"> ・地域福祉活動を推進する組織としての地区福祉活動推進協議会、まちづくり協議会への組織化を推奨するとともに、組織化をすることで効果的な活動が行えるような助成について検討する。 ・地域福祉の推進体制において、自治会・行政区単位⇔旧村単位(地区)の活動展開を説明する。 	

実施計画	小地域福祉活動の充実・強化を図ります	
事業展開に対してどのような成果(結果)があったか		
<ul style="list-style-type: none"> ・防災訓練やひとり暮らし高齢者等の見守りの連携等が進められた。 ・ひとり暮らし高齢者の懇談会では参加者が前年より増加していることにより、地域で孤立を防ぐ活動が浸透した。 		
進捗評価	課題	
実施されている部分もあるが 不十分な点が多い	地域の独自事業が伸展せず課題となっている (地域課題が把握されていない。地域支え合いの違い。)	
課題解決のための改善内容・取組方針		
住民個々が地域課題を認識するための懇談会開催や地域でのリーダー育成を行う必要がある。 地域協働体と地区福祉活動推進協議会の役割分化と事業協働の双方を進める必要がある。		

(6) 推進目標 地域包括支援システムの支援と介護サービスの充実を図ります。

実施計画	地域包括支援システムの支援と介護サービスの充実を図ります	
事業展開に対してどのような成果(結果)があったか		
<ul style="list-style-type: none"> ・社協で受託している高齢者総合相談センター(地域包括支援センター)の職員が、地域福祉活動計画の実践検証に関わっており、介護サービスの充実に地域福祉の考え方が生かされている。 ・介護保険事業の財源を地域福祉事業へ活用することで、地域福祉の推進が図られている。 ・地域包括支援システムにおける住民主体で担う福祉サービスとして、ふれあいサロンが定着している。 		
進捗評価	課題	
実施されている部分もあるが 不十分な点が多い	<ul style="list-style-type: none"> ・住民主体の生活支援サービスの拡充 ・新しい総合事業における在宅福祉課と地域福祉課の役割分担と取り組みについての確認 	
課題解決のための改善内容・取組方針		
地域福祉活動計画の実践検証を含め、市の地域福祉計画策定過程を通じ、住民主体の考え方が少しずつ広がってきているが、未だ、住民は福祉サービスの受け手であるという考えが大きく、住民と一緒にサービスを考えいく住民協働の実践を積み重ねる必要がある。また、計画の策定を通じて浮き彫りになった生活課題を一つずつ解決して行くことで、介護サービスと連携する生活支援サービスの拡充につなげる。		